

古いお家の保存と活用

● 旧田中家住宅の移築

板橋区立郷土資料館には、中庭に旧田中家住宅と呼ばれる古民家が建っています。最初から資料館の中庭に建っていたわけではなく、元々は区内の別地域である徳丸(江戸時代の頃は徳丸本村)に建っていました。昭和47年(1972)に郷土資料館が開館するにあたり、旧田中家住宅を展示物の1つとして利用することが企画され、移築されました。平成元(1989)年度より郷土資料館の改築工事が始まり、旧田中家住宅は曳家により移動して、現在に至っています。



移築前の旧田中家住宅



旧田中家住宅 正面

● 建築年代

旧田中家住宅が現在の場所へ移築され、平成8年に区の登録文化財とする際に、建築年代も検討されています。残念ながら、棟札や紀年銘のような年号が書いてある資料がないことから、建築年代を裏付ける資料がなく、当時の間取りや形式から江戸時代後期～明治時代に建てられたと推定されてきました。しかしながら、令和3年の調査により、障子にしし窓の痕跡や奥行の浅い押板が存在していたことが分かり、旧粕谷家住宅でも見られる江戸時代中期の関東の古民家の特徴を有していることが分かりました。



押板の痕跡



しし窓の痕跡

● 将来へ伝えるための活用

板橋区立郷土資料館に移築された旧田中家住宅は、それまでの住居としてではなく展示物の一つとして活用されてきました。区内の小学3年生の社会科見学では、郷土資料館へ来館した際、古民家で学芸員による昔の道具や暮らしの解説があります。他にも、古民家内で年中行事を行い、季節になると五月人形やお雛様が飾られます。このような活動を通して、古民家のことについてだけでなく、昔の暮らしや風習についても後世へ伝えていきます。



社会科見学の様子



ヒナマツリの様子